

平成27年度第1回門真市社会教育委員会議 会議録

会議名称	平成27年度第1回門真市社会教育委員会議
開催日時	平成27年12月1日(火) 午後3時から4時50分まで
開催場所	門真市立文化会館3階 音楽室
出席者	(委員) 萩原議長・桂副議長・吉村委員・川崎委員・脊戸委員・木下委員・古川委員 【出席人数7人/全8人中】 (事務局) 柴田生涯学習部長、岡生涯学習部次長、牧菌生涯学習課長、 西中図書館長、清水生涯学習課長補佐、十河スポーツ振興課長補佐、 竹本図書館長代理、藤田副参事、小寺係員、空本係員
議題 (内容)	① 門真市立公民館、門真市立文化会館及び門真市立門真市民プラザの指定管理者の指定 ② 子どもの学習機会の充実
傍聴者数	0人
担当部署	(担当課名) 生涯学習部 生涯学習課 (電話) 06-6902-7197 (直通)

【事務局】

それでは、定刻となりましたので、会議を開催したいと存じます。

開会に先立ちまして、お手元の資料の確認をいたします。(資料確認)

以上でございます。資料に不足はございませんでしょうか。

なお、本日、木ノ下智恵子委員につきましてはご欠席の連絡をいただいております。

それでは、以降の進行を議長にお願いいたしたいと存じます。よろしくお願いたします。

【萩原議長】

平成27年度第1回社会教育委員会議を開催いたします。(挨拶)

それでは、本日の案件に移らせていただきます。

まず、案件1、門真市立公民館、門真市立文化会館及び門真市立門真市民プラザの指定管理者の指定について、事務局から説明をお願いします。

【事務局】

それでは、案件1について、事務局よりご報告いたします。資料1「指定管理者の指定について」をご覧ください。

前回、公民館及び文化会館への指定管理者制度の導入についてご報告いたしましたが、本日まで指定管理者の候補者を選定し、議会の議決を経たのち指定しようと考えておりますので、これらの経過をご報告いたします。

今回、門真市立公民館、門真市立文化会館及び門真市立門真市民プラザを一括で5年間管理する

指定管理者の候補者として、アクティオ株式会社を選定しました。募集の経過につきましては、6月に募集要項を配布、7月に現地説明会を開催し16団体が参加、8月に4団体から申請がありました。

選定委員会には、萩原議長に委員長をお努めいただいたほか、本市の選定委員会ではじめて社会保険労務士の方に参画していただくなど、これまでになかったことにも取り組みました。

選定につきましては、第1次審査として書類審査を、第2次審査としてプレゼンテーション審査を行い、選定委員会が定めた基準に照らして審査した結果、総合得点1位のアクティオ株式会社を総合評価により指定管理者の候補者として選定しました。今後、12月に開催される門真市議会で議決されれば、1月に指定管理者として指定することを予定しております。

以上で案件1についての報告を終わります。

#### 【萩原議長】

ありがとうございました。それでは、本件について、ご質問やご意見はございませんでしょうか。

#### 【木下委員】

株式会社アステムは大東市の生涯学習センターなどの指定管理者を長年担ってらっしゃるので名前を存じ上げていますが、アクティオ株式会社は他にどんな施設での実績があるのか教えてください。

#### 【事務局】

アクティオ株式会社は、大阪狭山市や流山市などの生涯学習施策でも先進市といわれるようなところの生涯学習施設において、指定管理者として指定されています。

#### 【萩原議長】

他にはございませんでしょうか。

私も委員長として審査させていただきましたが、資料1の5ページ、総合得点をご覧いただくと分かるとおり非常に僅差でありました。しかしそれは各委員がしっかり評価をされた結果として僅差になったと判断し、このままの結果で候補者を選定いたしました。今回は非常に難しい審査であったと思います。

他にご意見などがなければ次の案件に移りますがよろしいでしょうか。

それでは、案件2、子どもの学習機会の充実について、事務局から説明をお願いします。

#### 【事務局】

それでは、案件2についてご説明いたします。資料2「前回のまとめ」をご覧ください。

昨年8月の社会教育委員会議において、任期である平成28年7月までに提言をまとめること、提言のテーマを「子どもの学習機会の充実」とすることが話し合われ、前回3月の会議では、個別の

事業のみを見ていくのではなく大局的な視点から事業の位置づけを見直すほか、予算の状況を確認していくなどして、大きな方向性を議論してはどうかというお話をいただきました。本日も、子どもの学習機会の充実を図ることを目的とした門真市教育委員会への提言につながるご議論をいただきたいと存じます。

本日の資料といたしましては、資料3として、生涯学習部の事業の内容や事業費がわかる一覧を作成しました。また、資料4として、新たに門真市民プラザなどの管理を行う予定であるアクティオや、現在ルミエールホールなどの管理を行っているToyボックスが指定管理者に応募する際に提出した申請書のうち、事業の実施に関する部分を抜粋し、指定管理者がどのような事業を行うとしているかがわかる資料を用意しました。

また、現在、門真市立図書館が、子どもの読書活動を推進していくための基本的な方向を示す「門真市第2次子ども読書活動推進計画」の素案をとりまとめており、「子どもの学習機会の充実」に関して重要なものだと考えるほか、社会教育委員の皆様にもこの内容についてお知り置きいただきたいため、門真市第2次子ども読書活動推進計画につきましては、図書館長の西中からご説明申し上げます。

#### 【事務局】

それでは、門真市第2次子ども読書活動推進計画についてご説明します。

門真市第2次子ども読書活動推進計画（素案）をご覧ください。平成20年3月に第1次子ども読書活動推進計画を策定いたしました。計画期間が概ね5年となっておりますので、今回第1次計画の検証と見直しを行いまして、平成28年3月完成を目指して第2次の子ども読書活動推進計画の策定作業を進めております。今回の第2次につきましては、子どもたちの豊かな心とことばを育むためということで、「広げよう読書の輪 育てようことばの力」をキャッチフレーズとして掲げております。

目次には第1章から第5章と計画の構成を記載しております。次に、第1章につきましては、第2次計画の策定にあたってということで、計画策定の趣旨について記載しております。2ページ以降が第2章となっております、子どもの読書活動を取り巻く状況と課題ということで、国・府の動向そして第1次計画の検証を記載し、5ページには、子どもの読書活動に関するアンケート調査の結果と分析ということで、今回実施したアンケートの結果を簡潔にまとめて記載しております。結果の全体につきましては資料編に載せております。第3章には基本理念を記載しております。「広げよう読書の輪 育てようことばの力」ということで、子どもと本を繋ぐ人が社会のいたるところに存在し、すべての子どもが読書に親しみことばの力を身につけられるよう、人生がより豊かになるものを目指しまして、子どもの読書活動を推進していけるよう環境づくりに取り組んでいきますという内容を書かせていただいております。9ページには、基本方針を3つ掲げております。次に11ページですが、施策の全体図ということで分かりやすいように図式化して、左端の推進項目に基づいて第4章を構成しております。それぞれの推進項目に関して実施施策を12ページから23ページまで記載しております。家庭・地域における読書活動が12ページにありまして、次に、15ページに

図書館における読書活動の推進、19ページに学校等における読書活動の推進ということでそれぞれの現状と課題とこれから取り組んでいくべき具体的な取り組みなどを記載させていただいております。22ページに連携・協働と普及・広報活動の推進ということで記載しております。最後、25ページですが、第5章、計画の実現に向けてということで、庁内体制づくりや進捗管理について記載しております。後ろが資料編となっており、一番初めにアンケート調査結果を記載しておりますが、審議会などの経過についても載せております。市内の公共施設で本日から23日までパブリックコメントを実施しております。

#### 【事務局】

以上で案件2についてのご説明を終わります。

#### 【萩原議長】

ありがとうございました。本件について、ご質問やご意見はございませんでしょうか。

今後のスケジュールについての確認なのですが、提言を来年の7月に策定ということで、今後の会議の目途をどのように考えているのかお聞かせいただけますか。

#### 【事務局】

今年度は2回の会議を予定しておりまして、次回の会議を3月の末頃に開催したいと考えております。今日いただいた資料を基に、提言の案などについてどんな形にしていけるだろうかということをお萩原議長とご相談させていただき、できれば次回の会議で提言の素案といいますか、ペーパーにまとめたものを皆様にご提示できればと考えております。会議の中で意見交換を重ねますけれども、7月末が任期ということで、例年であれば次回の第2回の会議で一区切りというところで、あとはメールや直接やり取りをさせていただいて議長に最後提言をとりまとめていただきたいと考えております。しかしながら、提言でどこまで書かなければいけないであるとか、こういうものを作らないといけない、あるいは作っていただきたいというところまでは基準がございませんので、その辺りも総合的に議長と相談しながら今後について進めていきたいと思っております。

#### 【萩原議長】

3月に素案提示し、メールなどでやり取りをしながら7月にそれなりのものをまとめるということで、会議としては今日を含めて3回ということでしょうか。かなり厳しい日程なので、今日の会議でできるだけ色んなご意見を頂戴して、3月末の提言案にどう反映させるかということを考えていければと思っています。前回の会議のときに色々ご意見をいただいたんですけども、そのときもブレインストーミングのような全体的なご議論でしたので、それに続けて今回も色々なご意見をいただいて、3月の末にはそれを形にしたいと考えております。

今日は資料をたくさん出していただいておりますが、資料の内容について特にならなければ、自由にご意見をいただきたいと思っております。

#### 【桂委員】

学習機会の充実ということで、小学生・中学生・高校生くらいの子どもの学習をする公的な場所が何パーセントくらい使われているのか、現状がどんな状態なのかを知りたいと思います。

#### 【事務局】

まず、門真市内で学習室を備えた公共施設は、文化会館・生涯学習センター・青少年活動センター・南部市民センターです。また、図書館の閲覧スペースで自学自習をしている中高生もお見かけいたします。しかし、学習室の利用者数については分かりますが、それ以外で出せるような数字は今のところございません。

次に、資料3の2ページ、19番と20番をご覧くださいませでしょうか。地域の方々や大学生のボランティアの皆様にご協力をいただき、水曜日の放課後にはまなび舎Kids事業を小学校8校で、また、土曜自学自習室サタスタ事業を土曜日の午前中に行っております。こういうところで、生徒あるいは児童の自学自習の機会を提供して、そこで地域の大人であったり大学生と一緒に勉強できる環境を作っております。

#### 【木下委員】

図書館の新館に向けての図書館協議会の委員もさせていただいておりますが、読書活動の推進に留まらない、子どもをよく捉えた学習機会の充実の場についても協議会で議論しています。静かにじっと本を読んでいるということだけが新しい図書館の目指すところではございませんので、読書活動の推進・サポートだけではなく、広く子どもの自主的な学習機会の提供、あるいはそれができる場にしたいという計画を立てていっております。ですので、この子どもの学習機会の充実に関する提言にも、ぜひ、図書館が担えるそういう機能について盛り込んでいただきたいと考えております。

#### 【萩原議長】

読書活動の中でも色々な子どもの学びの支援をやっているの、それについても提言に反映すべきだというご意見をいただきました。今日は同様の形で自由にご意見をいただければと思います。

#### 【木下委員】

先程ご説明いただきましたまなび舎Kidsやサタスタなどは、小学校の教室で実施しているということでしたが、色々な場所でそういう学習支援が行われれば良いと思いますので、ぜひ新しい図書館でもそういう一つの場として活動の場にもなれば良いかなと思いました。

#### 【川崎委員】

一つ補足いたしますが、中学校のほうでも学校教育課がまなび舎Youthというものをやっております。

**【萩原議長】**

この表には載っていないものですね。

**【川崎委員】**

一つお伺いしたいのですが、公民館・文化会館・市民プラザの3つを一括で指定管理にするということで、この3施設は設置目的などで差異はあるのでしょうか。

**【事務局】**

公民館につきましては市民の情操の教育や文化活動の振興など、社会教育法に書かれた法令上の目的を設置目的としております。文化会館につきましては、公民館と同じ設置目的を条例において定めておりますので、目的といたしましては公民館と文化会館は全く同じとなっております。一方、市民プラザの生涯学習センターは実質的には公民館や文化会館と近い目的を備えておりますが、生涯学習の振興というところに特化しております。また、同じ市民プラザの青少年活動センターは、例えば子ども会や青少年指導員などの青少年の活動あるいは青少年の活動を支援する活動の支援を目的として掲げております。

**【桂委員】**

コミュニティセンターはありませんね。

**【事務局】**

門真市にはコミュニティセンターは今のところありませんが、地域協働センターというものを新たに作ろうという計画がございます。

**【川崎委員】**

子どもの学習機会の充実となると市民プラザの役割が大きい気もいたしますが、前回の意見のまとめのところ桂副議長が他部局の事業との連携についておっしゃっていますが、地域会議のことについて五中校区ではかなり動いていて拠点の場所も整備されています。活動するための部屋もありまして机や椅子などを置くことによって子どもの学習機会の充実も含め色々な目的に使用することができるのではないかと思います。

**【事務局】**

五中の地域会議で自治会館を使って子育てサロンが実施され、そこで図書館で活動していただいているボランティアさんが、地域の親子連れの方に対する読み聞かせを行いました。2回目も決まっております。今度北巢本のほうで読み聞かせを行う予定がございます。

**【萩原議長】**

そのような連携をされている例があるということですね。

今日は資料3で生涯学習部の事業一覧はいただいておりますが、他部局の関連する事業があればいいかもしれません。他部局と連携している例も実際にあるかと思っておりますので、そういったものが分かれば我々も考えやすいと思います。

#### 【桂委員】

以前、サタスタなどが報道で取り上げられたことがありましたが、実施状況などを教えていただけますか。

#### 【事務局】

現在、サタスタにつきましては市内小学校14校・中学校6校の全てで土曜日の午前中に実施いたしております。まず中学校については、全ての学校が5月当初から始められるわけではなく、学校によっては2学期からの実施になるところもございます。小学校においては、主に学校支援地域本部のコーディネーターの方々及び学校と相談させていただき、年度当初に対象学年や年間回数を決定しております。コーディネーターの方々には実施にあたって安全管理員を集めていただき、役所側では大学をいくつか回って学習アドバイザーを集め、必要なスタッフが揃ったところから随時開始をしております。

#### 【木下委員】

学習支援の担い手である学習アドバイザーを、大学を回って募集しているとお伺いしましたが、それは個人個人に対する呼びかけということでしょうか。大学との組織的な連携などはいかがでしょうか。

#### 【事務局】

主に包括連携している大学を回らせていただきまして、チラシ・ポスターを配布させていただいたり、大学によっては興味のある学生さんを集めて説明会を実施しております。その後、ご協力いただける学生さんと個別に連絡を取っています。

#### 【木下委員】

ありがとうございます。提言にはぜひ大学との連携についても書いていただきたいです。現在、商品開発などを色々な大学が地域と連携して行っている事例をよく拝見いたしますので、子どもの学習機会の充実につきましても、具体的な連携先の一つに大学も書き込む必要があるのではないかと思います。

#### 【萩原議長】

交通の便がいつもネックになるんですが、それでも興味があって協力している学生は何人かいるようです。

#### 【木下委員】

門真市で活動するにあたって便利な大学はどこになるのでしょうか。

**【萩原議長】**

大阪国際大学でしょうか。

**【木下委員】**

京阪沿線ですよ。

**【事務局】**

南に住んでいる摂南大学の学生さんにご協力いただいているケースもあります。

**【吉村委員】**

大学生だけではなく、高校生も協力する側としてお考えいただくのはどうでしょうか。高校生という育てられる側でもありますが、一方で地域の商店街の商業的を作ろうかという話もあったり、そんなところで地域の生徒も多いので自分たちの弟分妹分にあたる子たちへのボランティアをやってみたいという生徒も結構います。生徒たちの学びの一環として、自分たちが学んできた場所あるいは育ってきた場所の小学生・中学生に対して何かできることはないのかなと思っています。そこが上手く絡み合ってくると高校生自身も育ち、そしてそれが小学校の子たちにとってのプラスにもなります。大学生だとどうしても遠くから来るという形になりますが、高校生はその市町村に住んでいる生徒もたくさんおりますので、その辺が上手く絡んできたらいいのではないかと思います。

**【木下委員】**

若い人が若い人を支えるという、サービスの提供を受けるだけではなく、する側にもなるということもとても大事です。

**【川崎委員】**

サタスタには高校生も時々来ていました。これからも呼びかけていただけたらいいと思います。

**【桂委員】**

最近、色々ところで赤ちゃんを産んだばかりのお母さんと子どもさんたちの集まる場所として自治会館などを使っている例があります。相手をするのは老人会の人たちです。最初はどうかかなと思っていましたが、結構人数が増えまして月2回くらいの実施になったり、結構需要があります。小さい子どもさんたちの読書であるとか学びとかという、就学前の子どもたちに対する支援であれば今まで教育に関わっていた人だけじゃなくて、老人会などに声をかけたりするのも良いのではないかと思います。

**【萩原議長】**

子どものことを子どもだけでなく色々な世代の繋がりとか、その繋がりを作る仕掛けみたいなものを考えていければということですね。これから提言をまとめるわけですが、できれば具体的に取り組めるものを提言したほうがいいのではないかと思います。単に問題の指摘だけでなく、こういう取り組みがこういう効果を上げている、こういう取り組みはもっとやったほうがいい、ということを挙げたほうが生産的な気がしますので、そのような提言ができればと個人的に思っています。関わっている色々な事例を教えていただければ、そこから色々なヒントが得られると思いますのでよろしく願いいたします。

#### 【桂委員】

この間、「食べにいらっしやい」という子どもたちに対する食に関する取り組みがあって、全国でまだ14箇所くらいしかない状態らしいです。学習機会の充実ということの基には食事も大きく関わってきます。そこで自治会や社会福祉協議会など、そういうところとコラボしながら子どもに手を差し伸べてもらえるような仕組みができたら非常に嬉しいと思います。

#### 【事務局】

ただいま桂委員がお話になった件ですが、市の教育委員会の中でもそういう議論を常々やっています、色々な市民団体やNPOの方々と接する機会があるのですが、あるNPOからそういうことをやってみようというお声もございます。ただ、どこの部署が所管するのか、また総合的にバックアップしていくのかなど、色々な検討課題はあるんですけども、実際門真市の中でもそういう思いを持って取り組んでいる方もいらっしやいますので、今後の子どもを育てていくことに対して積極的に市としても関わっていかねばいけないのかなと考えています。

#### 【木下委員】

記憶違いかもしれませんが、新聞に府内でそういうグループがあるという記事が載っていたかと思います。全く予算化はされていないので食材については地域の商店街から提供してもらい、調理はボランティアさんで、集う子どもたちは無料ということでした。学習機会の充実とは違う施策で、貧困家庭への支援ということで食事の場を提供なさっている色々な団体さんがありますけれども、学習機会の充実というテーマからずれてしまわないようなアプローチが必要かと思います。ただ、他市でそのような取り組みがあるということは参考にできるのではないのでしょうか。

#### 【桂委員】

行政として予算を取ってということではなく、色々なことを社会福祉協議会やNPOがされているということを知っておくことが大切だと思います。食事というものは基本的なものなのでそこで気持ちがほぐれたら、勉強や宿題をしようということにも繋がっていくだろうと思います。そういうものを持たないといくら場所を設けて勉強するようにしても、その一歩が踏み出しにくいんじゃないかと思います。

#### 【萩原議長】

学習機会の提供をしようと思ったら子どもの状況を考えないといけないので、当然学習まで来られないとか踏み出せない子どもはいますよね。それを引き寄せる仕掛けとして例えば食事とか遊びとか色々な切り口があると思いますが、そこに来てもらってそこから少しずつ関係を繋いで学習に繋げるようにしていかないと、一番しんどい子どもたちがいきなり学習といってもなかなか来られないという気がします。

**【桂委員】**

放課後児童について色々ところでやっておられると思いますが、放課後児童クラブに申請しても行かなくなってしまうたり、本当に来てほしい子どもが来ていないのではないかなと思っています。そのような現状の洗い直しをすればもう少しステップアップしていけないかと思っています。

**【古川委員】**

資料4に書かれてある事業は、これをやっていくということによろしいでしょうか。

**【事務局】**

はい、そのとおりです。

**【古川委員】**

これは学校とかの横の繋がりはあるのでしょうか。

**【事務局】**

多くの講座では施設内で講座を開催してそれを広報やチラシなどで周知している状態だと思いますが、現在指定管理者とはできればどんどん外に行ってほしいと話をしています。もちろん学校にも色々働きをかけて、例えば先生とお話をしてニーズのある講座を作ったり、学校を会場にするということも中には出てくるのではないかと思います。基本的には学校で活動されている児童や生徒さんに来てもらったり教職員と連携しながら作っていくというものも増やして行ってほしいなと願っています。

**【古川委員】**

教職員との具体的な連携の、会議の場所とかはあるのでしょうか。

**【事務局】**

現在の指定管理者は学校とそれほど何かを打ち合わせしたり企画会議をしているというような話は聞いておりません。なかなか教職員の負担というものもありますので、定例化したいということはちょっと難しいのかなと理解しております。新しい指定管理者にはぜひ色々な形で、教職員の負担を増やさないように色々な連携を探っていただければと思っています。

### 【古川委員】

子どものニーズを一番把握しているのは学校の先生だと思います。負担になるという発想よりは、むしろ学校の先生の助けになるみたいな感覚で連携の場があればいいのではないのでしょうか。できれば、ボランティアとかではなくてきちりとした形でやれるように。学校の先生にも理解のある人はいるのではないかと思いますので、最初は有志でもいいかなと思いますが、少しずつこれが広がっていくような形になればいいと思います。サタスタの事業もそうですが、リピーターがどれくらいいるのかが気になります。私の経験から言うと、この手のことを利用する子は放っておいても他のことも利用していく子が多くて、ぜひ来てほしい子は「笛吹けど踊らず」みたいな感じだと思います。そこには家庭の貧困の問題であるとか、親の勉強に対する意識の問題などがあります。やる子はどんどん参加して充実していくと思うんですが、門真の問題はそこだけではないと思います。桂先生がおっしゃった「食べる」ということもそうですが、そこを引き上げる何かが必要ではないのでしょうか。義務教育を卒業するまで家族を生き抜くという子も多いと思うんです。ごはんも食べさせてもらえない子も多いので、自分でそれを作れてなんとか生き抜く力を身に着けるといような、その辺まで目線を下げていった取り組みというのがこの地域には必要ではないかと思っています。保護者を対象とした講演会をやっても、大体来る人は決まっています。そういう人は放っておいても来て、絶対来てほしいなと思う人は絶対来ないという現実があります。それをしょうがないと言ってしまったらいつまでも一部が賑わっているだけになってしまいます。ここの底上げの部分考えたときに、門真の子には「勉強するんだ」という思いがやっぱり足りないように思います。色々取り組みもしているけれど、暮らしもしんどく、楽しい取り組みに参加しても家に帰ったらいつもと同じようなことが起こっている中で、じゃあ一体人生って何なんだというところまで親は考える余裕がないと思います。そういう哲学的なことも含めて、意味もなく勉強するというのは結構辛いと思います。ある程度の生活の豊かさであるとか、心の余裕がなければなかなか勉強までいかないでしょう。その辺で取り組めるようなことがあればぜひ提言の中に盛り込めたらいいなと思います。

### 【事務局】

先程、桂委員と古川委員からご意見いただきましたが、NPOなどとの連携も色々な形があると思います。団体の活動にも色々ありますので、学習支援と貧困やその他色々なことを組み合わせていかなければならないと思いました。今こうしてお話を聞きましたので、色々いただいたご意見を参考にさせていただきますと思います。

### 【萩原議長】

狭い意味での学力向上ではなく、生活支援とか学習というものを幅広く捉えるということですね。これはとても生涯学習的でいいなという気がいたします。狭い学力の向上とか学校の勉強というのではなくて、生活する力なども含めて学習機会と捉えたら、食事を提供することも学習機会に繋がっていくわけですし、そういう風に唱えた方がいい気がしますね。

### 【古川委員】

指定管理者の事業の中に寺子屋というものが書いてあるので興味を持ったんですが、日曜寺子屋家族塾というものをやっていて、その時に、講師として学校の先生にボランティアで来てもらっています。まず学校の先生は疲れているからボランティアとかそんなことはしないという概念が崩れましたし、学校の先生が学校以外で教える場を持つと凄く活性化するなと思いました。指導要綱ではなく、自分の教えたいことを自分の教えたいように教えるわけです。学校で先生に教えてもらった子たちが来たりしますが、学校の先生が授業で教えている形式では全くないんですが、凄く面白かったりするんです。門真は家がしんどい子が多いので、じゃあ誰が一番引っ張って目標になるかということ、学校の先生以外にないと思います。そういう意味では子どもたちの支援プラス学校の先生がキラキラと輝けるような場所が必要ではないでしょうか。それは、これはオーバーワークかもしれないとか、こんなこと言ったら悪いという既存の発想ではなく、今のところ学校の先生自らやりたいという人もいらっしゃいます。社会の先生とかでも、教科学習ではなくて、例えば前方後円墳というのは実はこういう意味があるんだというのを小学生に教えるんですが、物凄く力が入ります。その、先生が物凄く一生懸命語っているということが子どもの学習意欲に繋がることがあるので、そう意味で、学校の先生のメンタルヘルスの向上は門真の子どもたちに直結していることだと思います。その辺も含めた意見が提言の中に盛り込めるようなことがあればいいと思います。

### 【吉村委員】

今おっしゃったのはその通りだなと思います。私は元々理科の教員なのですが、地域の科学教室で教えることがあります。高校生を教科書で教えていると、教えなければいけないことを教えている時にはあまり楽しそうに聞いてくれないこともあるのですが、小学生に実験とかを持っていくと結果を見たくて近くまで寄ってきてくれるので、思わず感動したりします。確かに教員自身が学校以外の場と出会うことで凄く元気になるということはあるので、そういうのに行けるようなチャンスとかがあるといいと思います。

### 【古川委員】

科学とかの授業が一番人気なんです。教えている先生も、凄くやりがいを感じて、それが学校へ行ったときの授業の活性化に繋がるという良い循環があります。

### 【事務局】

生涯学習部が所管する事業の中で、理科講座がありますが、実は指導主事の先生に協力していただいた例があります。中学校の先生と小学校の先生にそれぞれご協力いただきました。中学校の先生は理科の担当で、3月に小学生を対象に、白衣に着替えていただいて実験をやってもらいました。小学校の先生の理科関係を中心に勉強されていた先生に夏休みにやってもらったときも非常に好評で、実験中に子どもが立ち上がるくらい熱中していました。他にも、はすはな中学校の科学部の子どもたちに小学生相手に講義をしてもらったりもしました。大阪樟蔭女子大学のほうにも「イキ×ラボ」というプロジェク

トがあり、この12月に3講座協力していただきます。「べっこう飴を作ろう」「バターを作ろう」そして初めての試みとして市民プラザで天体観測の講座を実施する予定です。

#### 【古川委員】

学校で百人一首大会などを開催することがありますが、発達に障がいがある子はとても強かったりします。そのときに、ベスト3とかに入ると、今までコミュニケーションが苦手だった子が他の子から凄いいねと言われると、今度は百人一首の意味を知りたがったりするような、良い循環があります。また国語の先生や古典の先生で源氏物語がとても好きな先生がいると一生懸命教えるので、なんとか少将とか言われても分からないけれども何かが伝わっている。そういうことを提言に盛り込めればと思います。

#### 【脊戸委員】

余力のある人に進んで自分の住んでいる地域などで活動してもらうことはとても大事だと思いますし、凄く効果があることです。しかし学校としては、小学生は校区から勝手に外へ出てはいけないという決まりもあるので、地域密着型の近くで安心できる場所を学校以外に求めたいです。それこそ川崎委員がおっしゃったような地域の拠点が各校区にあればと思います。そこへ行ったらいつでもボランティアさんと話をしてくれて学校では学べないことを話し合えたり、夜遅くまで親が帰ってこなくてその辺を徘徊してしまう子たちが安心できる場所があるのが理想です。図書館に行きなさいと言っても1年生は遠くへ行けなかったり、児童クラブに預けるお金ももったいないから家にいなさいと言われているような子もたくさんいるような状況があるので、無償で安心して預かってもらえて勉強もできるような場所があれば学校としては安心です。

#### 【川崎委員】

今の話に繋がることで、公民館・文化会館・市民プラザ・ルミエール・中塚荘・図書館・体育館・グラウンド、色々なところで名前が出ていますが、五中校区・四中校区にはありません。子どもの数では五中校区が一番多いんですが、南東部に施設がなく、学習機会という場合には場所も必要だと思います。将来的なことになるのかもしれませんが、ちょっと偏りがあるなと思っています。

#### 【桂委員】

スポーツ関係ですが、今この財政からいったらどんどん建てたりはできないと思います。文科省なんかも公的な施設、つまり学校なんかを有効利用しなさいといっています。ところが、昔は日曜日に学校へ行ったりもしていましたが、今では入れなくなっています。場所がないというところであれば、地域の大人たちが違う場所を作るのではなく、夜間はこの部屋とこの部屋は使ってもいいですよというような形で、その場所に親も入り込んだりできないのかなと思っています。体育館なんかは恐らく使ったらっしゃるんじゃないかと思いますが、サークル活動としてではなく自由に使えるような日程を設ける方法もあるのではないのでしょうか。施設が無いからといって建てられるような財政はないんじゃないかと思っています。

### 【萩原議長】

場所の提供は大きな問題ですね。家庭でもなく学校でもない第三の場所が必要だということですね。またその軸単位の施設としては管理運営を切り離して学校を活用できないかというご意見でした。そのほうが先生方もすっと帰れていいかもしれませんし、それをなんとか上手くできないかなという感じですね。全部は無理としても、先程も話が出た南東部のところで1つ2つモデル的に何かできないかと検討したいですね。

### 【事務局】

施設の話が出まして、学校とのというお話がありましたが、もちろんそれは我々も検討課題だと思っております。それとは別に、現在各中学校区単位で地域会議というものを設置しようという動きがあります。これは何かというと、市民の皆様が集まってそこで地域の課題解決に向けて色々ご議論いただいて、それぞれ福祉の関係であるとか子育ての関係であるとか、若い人をターゲットとしたものであるとか、色々なことをそれぞれの地域の中で事業として展開していただくというものです。そういう地域会議というものを今立ち上げていってもらっています。五中が一番で、この間11月に三中の地域会議が設立されました。これから順次設立されていくかと思いますが、施設のイメージとしては、地域協働センターというものを建設しようということで今計画を進めています。例えば五中であれば旧くすのき園・さつき園の跡地に建てようとかいう計画で進んでいます。門真の財政は潤沢ではないので何年もかかっていく話ではあるかと思いますが、その建設にあたっては市民の皆さんのお声も聞いていこうとしています。イメージ的には中塚荘くらいの規模です。本棚なども設置してフリースペースで子ども皆さんなどが自由に本を読んでもらえるような、そういうイメージで進んでおります。そういうところも地域の拠点になるのかなというイメージを持って市としては取り組んでいます。また、先程色々な方向から取り組んでいくということが大事だというご議論があったと思いますが、実は子どもたちがスポーツをする機会が段々無くなっているもので、それでは駄目だということで、去年からスポーツレクリエーション大会という、競技スポーツだけではなくて色々なスポーツに興味を持っていただくような大会を年に一回スポーツ振興課のほうでやっておりますので、そこにも目を向けていただくと非常にありがたいと思います。

### 【桂委員】

箱ものはなかなか難しいですね。施設を建てても同時にソフト面も充実させて皆が盛り上げてやっていけば別ですが、箱だけを作ってさあ活動してくださいと言ってもなかなか難しいです。今既に取り組んでいらっしゃることをサポートしたりするのが大切じゃないかと思います。

### 【木下委員】

小規模になってしまっただけで公的施設とはまた違うかもしれませんが、学習機会の充実という機能ではなくて、地域にコミュニティカフェみたいなものがあって、私の住んでいる市でも市民さんがやっておら

れます。そういうところも先生がおっしゃった第三の場、サードプレイスとしては学校でも家庭でも職場でもないということで、小規模ですがそういうコミュニティカフェも視野に入れていくべきかと思います。校区に施設がないということも重要な課題だとは思いますが、市民さんでもそういう活動をなさっていることがもし把握できたとしたら、そういうところを連携先として何年後かの既存施設の完成を待たずにできることもあるのではないかと思います。

**【萩原議長】**

地域密着の草の根の活動は介護とか高齢者福祉ですね。そことの連携がもし上手く進めばそれは一つのモデルになるかなと思います。

**【木下委員】**

食事の場の提供などをなさっているNPOさんはどちらかというと、学習・学び・勉強ということではなくて、インクルージョンといいますか、誰も排除しないというそういう理念でやってらっしゃるNPOさんや団体さんだと思います。

**【萩原議長】**

学習というのを幅広く捉えたらいいのではないのでしょうか。その時間を全部学習に使うのではなくてごく一部の時間をちょっと教えてもらうでもいいですし、それ以前のところのベースを作ってもらって、あとは学習意欲がその先に出てくるというのも学習機会の提供だと見ていけば福祉とも色々な提携ができると思います。

**【事務局】**

NPOは空き家を活用したいということなんですけれども、なかなかNPOが借りにいっても貸してくれないということで、市の委託ではなく自分たちの自主的な活動としたいとおっしゃってるんですけれども、そういう空き家を借りるとかいう面では行政の後押しがないと借りられません。その辺で力を貸してほしいという相談も聞いています。

**【萩原議長】**

色々な議論ができて面白くなってきたので、もう少し事務局とも詰めていきたいと思います。今日もいくつかの重要なキーワードが出てきましたので、それを上手く拾って行って今までの型通りの提言ではなく、やる上でヒントになるようなものができればいいなと思います。

**【桂委員】**

先程天体観測の講座をすとお聞きしましたが、門真市内で夜というのはよく見えるのでしょうか。というのも、この近辺だと四條畷の山のほうに天体観測ができる場所があります。門真にはキャンプ場はないので、例えばバスでそこに行ってそこで天体観測をするということも計画されてはいかがでし

ようか。小学生だけでは校区を越えられないなら、子どもたちを引率する青年や元気な高齢者などを募ったりすれば校区以外の行事にも参加できるのではと思っています。また、なみはやドームでも色々な催しや教室をしていますが、せっかく門真にあるのに活用できないなんて勿体ないと思います。

#### 【脊戸委員】

引率には責任が伴うので、ボランティアの方に負担がかかるという問題もあります。

#### 【桂委員】

門真に住んでいても門真の学校に行っていない場合もあって、そうするとそれは統計に出てこないし、その人たちは住んでいるだけで別に構わないという意識を持っています。その辺の狭い学力でいうと統計に出てこないのも、やっぱり自然に触れてそこで生きる力を育むような、そんな計画を知恵を絞ってしてやらないと、従来どおりの行政が何かこうやりましたという形だけでは進まないですね。

また、スポーツのことですが、やはり子どもの頃から運動をしていなければ、大人になってもずっと運動が嫌いです。高齢者の健康長寿を伸ばすといえば食べ物と運動だととても言われますが、運動をするかというのは子どものときにスポーツが好きだったかどうかと相関関係があると思います。子どもは本来動くことが好きだと思いますが、腕の力も脚の力もないし、逆に70代の人の方が脚力があったりします。

#### 【萩原議長】

生涯学習の一番の課題は格差です。生涯学習はやればやるほど格差がついて行って、やる人とやらない人がはっきりしてきます。なので、しない層をどう引き上げるかというのが凄く難しく、どうしても来る子は来るし、来ない子は来ません。そして来る子はどこでも来るからどんどん上がって行って、来ない子との差がどんどん開いていきます。そうすると全然効果がありませんので、それをどうするかということを考えなければいけません。簡単に答えは出ないと思いますが。

#### 【桂委員】

地域の一番しんどく、施設もあまりないようなところに皆が注力して、何か先生もワクワクしながらやれるような手当をしてあげられればと思います。

#### 【萩原議長】

色々な議論がでてきて面白くなってきたので、もう少し事務局とも詰めていきたいと思っています。今日もいくつかの重要なキーワードが出てきましたので、それを上手く拾って行って今までの型通りの提言ではなく、やる上でヒントになるようなものができればいいなと思います。

#### 【萩原議長】

それでは、これで平成27年度第1回門真市社会教育委員会議事を閉会します。